

一般社団法人桶川青年会議所
2024年度 運営方針

一般社団法人桶川青年会議所
第51代理事長予定者 海老原 直矢

私たちが地域の要に

― 次の半世紀の青写真を描く ―

昨年度、一般社団法人桶川青年会議所は創立50周年を迎えることができました。1973年に全国で542番目となる青年会議所として創立されてからこれまで歴史を積み重ね、多くの地域を牽引するリーダーを生み出してこられたのは、まさに先輩諸兄姉の皆様が互いに切磋琢磨しながら、愛する桶川のために何ができるのかを必死に考え、挑戦を重ねてきた成果以外の何物でもありません。

半世紀を迎えて次の一步を踏み出す2024年度、一般社団法人桶川青年会議所は、これまでの先輩諸兄姉の重ねてきた歴史と想いを受け継ぎながら、活動の目的の原点に立ち返り、私たちが地域の要であると桶川市民の皆さんに思い出していただけるような活動を展開し、次の半世紀に向けた青写真を描くために邁進をしていきます。

〈これまでの歴史をもとに、新たな一步を踏み出す〉

昨年度、桶川市とその周辺地域を活動エリアとする一般社団法人桶川青年会議所は、創立50周年を迎えました。これまでの半世紀、それぞれの時代のメンバーの熱い思いによって引き継がれてきたバトンを次の時代へと渡していく次の一步を踏み出す重要なタイミングである今年度は、改めて私たちが地域のために何ができるのか、そのために私たちはどのような挑戦ができるのか、を見つめ直し行動をする一年としていきます。

青年会議所の運動は、自らの研鑽はもとより、社会に貢献しようという志によりスタートしました。そして、若い力と理想によって、地域の変革の牽引役として各地域はもとより日本全体の改革の原動力となってきました。

2020年から約3年に及び、人と人とのかかわりのあり方を大きく変え、今も社会に大きな影を落とす新型コロナウイルス感染症による影響や、世界各地での紛争や物価高・エネルギー高により多くの人々が将来への希望よりも不安と不透明感を抱いて日々の生活を送る今の時代こそ、変革に向けて力強く活動を展開してきた先輩諸兄姉の想いを受け継いできた私たちが社会でリーダーシップを発揮すべき時です。

そのために、次世代リーダー育成委員会の役割をさらに強化し、会員歴の浅いメンバーやコロナ禍などによりそれ以前のような活動をするのがこれまでになかったメンバーに、改めて青年会議所運動と一般社団法人桶川青年会議所の歴史とその活動の意義について知ってもらう機会をつくるとともに、先輩諸兄姉との交流の場も積極的につくっていきます。

〈私たちが、地域の要になる〉

創立 50 周年を迎えるにあたって、これまでの活動を振り返り、50 年の歴史を見つめ直す中で、改めてこの一般社団法人桶川青年会議所がいかに関与の要として桶川市のために貢献してきたかを認識するとともに、これまでの先輩諸兄姉の地域への強い情熱に胸を熱くしました。

桶川市では、さまざまな団体が地域の発展のためにさまざまな活動を展開していますが、そのいずれもがコロナ禍という大きな社会的な困難を経て、活動の再定義のために奮闘をしています。そのようななかで、機動力の高い私たちが、それらの団体と積極的に協働をしながら、これまで以上に地域に貢献できる活動を展開していきます。

また、桶川市民の皆さんに私たちの理念と活動を広く知ってもらうことは、地域における共感を高めていくということに留まらず、志を同じくするメンバーに集ってもらい、次の組織をつくっていくためにも不可欠です。これは、会員拡大ということのみを目的とするのではなく、自らの地域での役割を理解して挑戦をしていくアクティブに活動に参加できるメンバーを募っていくことにより筋肉質な組織をつくることにつながります。

これにより、私たちが社会に貢献する各団体や企業、そして個人をつなぎさらなる社会改革の渦を巻き起こしていくための「地域の要」として活動をするとともに、その理念を広く市民の皆さんに周知をし、共感するメンバーを集め、さらに「地域の要」としての役割を強化していくことが可能となります。

そのため、経済団体や地域の社会的企業などとの交流と連携を深め、私たちの理念と活動を広く伝えていくために、新たに広報渉外委員会を設けて、SNS などに長けたメンバーにその力を存分に発揮してもらいます。

〈私たちのまちの次の半世紀の青写真を描く〉

私たちが人生で出会う物事には、本来あるべき姿である「青写真」と目指すべき姿があり、どのような試練にもその意味と答えがあります。昨年度の 1 年間においても会員拡大や少数精鋭での各種行事の運営などさまざまな困難がありましたが、その一方でメンバー間の結束は高まり、これまで以上にともに知恵を絞りアイデアを出し合う環境をつくることができました。

試練に意味があるというのは、コロナ禍や紛争など不安定な社会と、人口減少などの困難を抱える私たちの桶川市についても同じことが言えると考えます。不安定な社会というの

は、裏返して考えれば人々が本当に望む理想の社会の姿を突き詰めて考える機会となり、人口減少など桶川市をはじめとした各自治体が抱える課題も、社会保障のあり方など差し迫った問題としてまさに私たち若い世代がまちの将来の姿を考えるきっかけとなっています。

2024年度は、桶川市の次の半世紀の青写真を描く1年としてまちづくりをこれまで以上に深く考え、未来ビジョン創造委員会が中心となり、昨年度行ったスポーツ施策に対するアンケート調査などを下地としながら、地域の実情の把握と市民の皆さんの想いを受け止めて桶川市に対して提言をしていきます。

〈結びに〉

私たちが今この一般社団法人桶川青年会議所のメンバーとして出会い、ともに活動ができてきているのは、これまでの先輩諸兄姉の活動の歴史があったからに他なりません。この歴史を力に変えて、さらなる発展のために力強く一歩を踏み出すことができるよう、メンバーが挑戦できる環境をつくることが何よりも重要です。そのために、各委員会の役割を再確認し、メンバーそれぞれが最大限の力を発揮できるよう、意識と目線を合わせる対話を徹底的に行っていきます。そして、先輩諸兄姉の皆様ともこれまで以上にご指導をいただき、活動をさらに拡大していきます。

私たちが次の時代の青写真を描き、地域の要になるという強い決意とともに、活動に邁進していきます。

事業計画

1. 青年会議所運動と一般社団法人桶川青年会議所の歴史とその活動の意義について
学ぶ機会の提供
2. 先輩諸兄姉との交流の場の設定
3. 市内の各経済団体や地域で活動する社会的企業などとの積極的な交流
4. 共感の中核とした会員拡大につながる広報活動の実施
5. アンケート調査等による市民の意見の集約と政策提言